情報を伝える　魅力が伝わる　十日町市をもっと好きになる

Public Relations

とおかまち 市報

No.231

2014 11/10

平成26年 11月10日号

松代地域特集

第10回 ほくほく線元気まつり inまつだい

2～3ページ

その他の主な内容

3	特集②まちづくり基本条例②
8	特集③大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015
	ピックアップニュース
12	●全国学力・学習状況調査結果
14	●第47回十日町市美術展
	連載コーナー①
16	昭和のとおかまち／こへび隊・サポーター通信
17	キラメキワーカーズ
18	タウントピックス
21	お知らせ・ガイド
26	熱中・夢中／和顔愛語／イクメンカジダン
28	ジュニア芸術祭

特集1 松代地域特集

10月12日(日)

第10回 ほくほく線元気まつり in まつだい

●問い合わせ：松代支所地域振興課☎597-2220

「ほくほく線沿線地域や観光客を結んで元気をつないでいこう」という地域住民の思いから始まった「ほくほく線元気まつり in まつだい」。当日は4500人が、19チームのよさこい演舞と地域の味自慢の出店で1日を楽しみました。今年は開催10回を記念して、よさこい祭り（高知県で開催）で受賞歴のある上総組（埼玉県）も参加し、迫力のある演舞を披露しました。

ほくほく線は、昭和6年の請願運動から始まり、長い年月をかけ平成9年に開通しました。松代地域は、発祥の地として開通以降さまざまな支援をしてきましたが、このイベントもその一つです。

10回の節目と併せて、平成27年3月の北陸新幹線開通に伴う、ほくほく線「特急はくたか」の廃止という時代の転換期も迎えました。

当日の様子の写真とともに、地域の皆さんの思いをお伝えします。

よこいさ ステージ
まつだい駅前広場

よこいさ パレード
松代本町通り商店街

インタビュー

思いを引き継ぎ10回目

私を含めスタッフのほとんどがよさこいに関しては素人でしたが、なんとか10回目にたどり着きました。

この祭りは、今は亡き金子偵人さんが残してくれたものです。金子さんは常々「ハレとケ」の面白さを伝えたいと言っていましたが、第2回の開催準備中に40代という若さで亡くなってしまいました。彼が目指していた祭りになっているかどうかわかりませんが、これからも観客・出演者・スタッフから「来てよかった」「また来たいな」と思ってもらえるような祭りにしたいです。

ほくほく線元気まつり
実行委員長
品田 靖さん
（松代・56歳）

「特急はくたか」に感謝

ほくほく線は、地域住民の心も生活も豊かにしてくれました。そのほくほく線を潤してきた特急はくたかに感謝に気持ちを込め、このNPOを設立し活動してきました。

特急はくたか廃止は、普通列車の特急通過待ちがなくなる分、乗車時間は短くなるので、「地域住民の足」としては充実するはずだと前向きに捉えています。また、来年3月のはくたか運行最終日にはこれまでの感謝の気持ちを込め、まつだい駅でのお見送りイベントを企画しています。これからも、地域住民が一体となってほくほく線を盛り上げていきたいです。

NPO法人ほくほく村
事務局長
村山 達三さん
（松代・69歳）

ほくほく線の歴史

昭和6年	「地域活性化のために鉄道を」と地元有志が請願運動を開始
昭和20年～	請願が採択され、線路・経済調査が進む中、北線派（直江津～松代～六日町）と南線派（直江津～松之山～湯沢）の誘致合戦など、さまざまな地域の動きが活発になる
昭和43年8月	六日町～十日町間工事着工
昭和55年	日本国有鉄道再建促進特別処置法により予算凍結・工事中断
昭和59年	中断した工事を代わりに進めるため、第3セクター「北越急行株式会社」設立
昭和60年	北越急行に「地方鉄道事業免許」の認可が下り工事再開
平成元年	政府が高速列車の運行を決める
平成9年3月22日	ほくほく線開通

私たちの「思いと力」を未来へつなぐ

― 誕生・十日町市まちづくり基本条例❷ ―

十日町市のまちづくりの道しるべとなる「まちづくり基本条例」が9月に制定されました（施行は平成27年4月1日）。10月10日号では、その意義や制定までの取組み経過を紹介しました。今号では、条例の全体像や新しい制度、子や孫に住み継がれるためのまちづくりに向けたメッセージを紹介します。

おさらい

イメージでみる まちづくり基本条例

子や孫に住み継がれる、住みよい十日町市の実現を目指して

まちづくり基本条例

市民の皆さんの力で耕された「市民が主役のまちづくり」という土壌があって、まちづくり基本条例ができました。

まちづくりの役割

- 市民
- 市議会
- 行政

まちづくりの方針

- 自然環境の保全
- 雪とともに生きる
- 産業振興 観光交流
- 地域自治組織

まちづくりの基本原則

- 地域資源活用の原則
- 情報共有の原則
- 協働の原則

安全・安心・快適な暮らしのためにも、所有する資産は所有者が責任をもって適正に管理しましょう。

地域の特色を生かした活動もまちづくりの一つです。地域自治組織をまちづくりの大切なパートナーとして応援します。

雪は、克服すべき課題であると同時に、活力としてまちづくりに生かすことができる資源でもあります。

次ページでは、まちづくりの主役の皆さんのこれからのまちづくりや条例に期待する声をお伝えします。

市民が主役のまちづくり

さまざまな経験をとおして、まちづくりの主役として活躍する人たちが増えてきました。

条例とこれからのまちに期待します

― まちづくりの主役（市民）の声 ―

このまちに暮らす誰もが、十日町市がいつまでも子や孫に住み継がれるまちであってほしいと願っています。まちづくりの主役である市民の皆さんが、まちづくり基本条例や市のまちづくりに期待することをお伝えします。

関口美智江さん
（昭和町・59歳）

「子どもの健やかな成長のために」という言葉を条例素案の中に見つけたとき、急に親しみが湧きました。条例には、「まちづくりの主役は市民」と書かれています。主役である私たち一人ひとりが、条例に込められたさまざまな思いや願いを、これからのまちづくりの中で育てていきたいですね。

まちづくりは、いくら進んでも終わりがないと思っています。だからこそ「ひとづくり」が必要なのではないでしょうか。その「ひとづくり」について明記されているこの条例が、まちづくりを継続するための基本になってほしいです。そして、みんながさまざまな考えを認め合い、広い視点でまちづくりを考えるときに役に立つ条例になればと思います。

高橋敏昭さん
（芋川・64歳）

街並みや景観からみた「まちづくり」にこだわりを持っていましたが、いろいろな地域・人・活動と出会う中で、この地にある全てのコトが資源となり、まちを形成していることに気づきました。十日町市はこういった資源の宝庫なので、これらを活用して地域循環型社会を実現することが、「このまちが好きで、住みたい」という思いにつながると考えています。地域資源を生かしたまちづくりにチャレンジしたいですね！

阿部正義さん
（上原・49歳）

高齢者を対象にサロンを開催していることもあり、お年寄りの姿にまちの良さを重ねています。人口減少化社会で、４人に１人が高齢者という時代になりました。子や孫から住み継がれるまちであるためにも、このまちに暮らす人が健康で元気に年老いることができるような、そんなまちになってほしいです。

星野景子さん
（十日町栄町・68歳）

まちづくりの新たな制度もできます

― 住民投票条例の策定に向けて ―

まちづくり基本条例では、市の方向を分けるような重要な課題が生じたときに、このまちに暮らす人の意見を直接聞くことができる「住民投票条例」をつくることが規定されています。現在、市では「住民投票条例」案の策定に取り組んでいます。

●住民投票条例とは

住民投票は、市政にとって重要な課題について住民の皆さんの意見を聴く、市政に声を届けることができる制度の一つで、条例というルールに従って実施されます。住民投票条例の形は大きく分けて次のように２つに分類されます。当市の条例は「常設型」となります。

常設型

▶必要なときに備えて、あらかじめ住民投票に必要な要件や手続を定めておくものです。この要件を満たせば新たな条例をつくらなくても住民投票を実施することができます。

個別設置型

▶必要なときに、住民投票を行うための条例をその都度つくるものです。

「まちづくり基本条例」と「住民投票条例（原案）」をもっとよく知ろう！

市では、まちづくりの道しるべとなる「まちづくり基本条例」と、まちづくりにおける新しい制度となる「住民投票条例」をより深く知ってもらうために、直接伺ってお伝えする出前講座を開催します。気軽にお申し込みください。

■**開催期間**＝11月下旬～ 12月22日㈪
■**対　　象**＝グループ・団体など（複数人が対象）
■**応募方法**＝企画政策課協働推進係へ直接申し込んでください。
☎757-3693　FAX 752-4635
注)申し込み時に希望候補日を確認し、日程調整します

Q＆A まちづくり基本条例

Q1　まちづくり基本条例ができると、私たちの暮らしの何が変わるの？

A1　条例は、市全体で共有するまちづくりの方向性や基本的なルールを定めたものです。つくったことで暮らしが変わる「特効薬」ではなく、住みよい市を実現するために、市民・市議会・行政が力を合わせて協働してまちづくりに取り組むことを後押しする「漢方薬」というべきものです。

Q2　まちづくり基本条例ができることで、罰を受けることや強制されることはありますか？

A2　条例は、誰かを罰したり、何かを強制したりすることを目的としたルールではありません。市民の皆さんがまちを良くするために実現したいこと（＝まちづくり）を後押しするものです。私たち１人ひとりが、このまちについて考えるときに参考にすることが大切です。

Q3　条例に書かれているまちづくりの基本ルールや方向性は誰が決めたのですか？

A3　このまちの最も基本的なルールとなることから、市民の皆さんの意見をもとにつくられています。

ECHIGO-TSUMARI ART TRIENNALE 2015

会　期　2015年7月26日(日)～9月13日(日)

開催地　越後妻有760㎢（十日町市・津南町）

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015

２０１５年夏、「大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ２０１５」は６回目の開催を迎えます。今回は新たな２つのテーマのもと、これまでの約２００点の恒久作品に加え、15の国と地域からのアーティスト約１００組による新しい作品が展開されます。

マイナスから新しい価値を生み出す

これまで５回開催した「大地の芸術祭」の経験を踏まえ、第６回では「人間が自然・文明と関わる術こそが『美術』」と「都市と地域の交換」の２つのテーマ（次ページ記載）で開催します。

過疎高齢化の中で地域は疲弊し、廃校や空き家が増えていますが、こうした廃校・空き家こそ地域再生の基盤になりえます。今回の芸術祭では、旧奴奈川小学校や旧清津峡小学校などの廃校を活用した作品を主要プロジェクトとして展開していきます。

（10月14日㈫、大地の芸術祭東京企画発表会より）

北川　フラム（総合ディレクター）

photo by Junya Ikeda

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015 のテーマ

これまでつくられてきた作品群は、この地域で人間が生き、生活するために親しみ、ときには格闘してきた自然と、それに関わる術を、作品をとおして浮かび上がらせてきました。第６回展では、さらに２つのテーマを展開します。

1 人間が自然・文明と関わる術こそが「美術」

人間が自然の中で生きていくために培ってきた、さまざまな創意工夫・技術に焦点を当てた作品に加え、近代美術の概念を超えた自然と人間の関係に焦点を当てた21世紀の「美術」を概観します。

シンボルプロジェクトとして磯辺行久さんの作品「土石流の記念碑」を展開します。長野県北部地震（２０１１年３月12日発生）による土砂崩れ範囲の緑に黄色いポールを立てます。

2 都市と地域の交換

これまで培ってきたサポーター・応援団・企業のネットワークを生かしながら、地域と都市が交流し、お互いが得意なことを補い合う「交換」の場をつくります。

２０１１年の震災以降、東北の子どもたちとつながるべく始まった「越後妻有の林間学校」とも連携し、都市・東北・地域を超えてさまざまなジャンルの人たちが関わります。

越後妻有の林間学校

磯辺行久「土石流の記念碑」（イメージドローイング）

さまざまなネットワーク

ネットワークアドバイザーを迎え、これまでにないネットワークをつくり、音楽・スポーツ・ファンドレイジングなど多様な角度から芸術祭を支える仕組みをつくります。

高島　宏平さん
オイシックス㈱
代表取締役社長

ネットワークアドバイザーとして参加します。都市にいる我々だからこそ地域に対してできることがあると思うので、いろいろな仲間を巻き込んで芸術祭を盛り上げていきます。これからも都市の人から参加してもらい、都市の住民だからこそできる支援をしていきたいと思っています。

応援団

※五十音順

- 荒井　優（㈶東日本大震災復興支援財団専務理事）
- 小林武史（音楽家）
- 佐藤大吾（㈶ジャスト・ギビング・ジャパン代表理事）
- 高島宏平（オイシックス㈱代表取締役社長）
- 竹田尚志（キーン・フットウェア㈱代表取締役）
- 為末　大（元アスリート）
- 塚本光輝（Sturdy Style（スタディ スタイル）代表取締役社長）
- 吉松徹郎（㈱アイスタイル代表取締役）

目玉プロジェクト

奴奈川キャンパス（仮）

松代地域

旧奴奈川小学校

主要５科目以外の美術・体育・家庭科・音楽を学べる学校を目指し、各教科に助言者・先生を置き、さまざまなプロジェクトを展開します。

倉庫美術館

中里地域

旧清津峡小学校

地域の遊休施設を、都心に倉庫を持てないギャラリーや作家の作品倉庫として使用し、都市の機能の弱点を逆手に新しい視点で活用します。

地域におけるパフォーマンス

津南地域

旧上郷中学校

旧上郷中学校を舞台芸術演者の滞在スペース兼劇場として再生。会期中は「サンプル」「ニブロール」「指輪ホテル」が、滞在制作公演を行います。「リン・シュンロン＋ツァイスー劇団」による屋外舞台制作と上演もします。

KEEN（キーン）コミュニティハウスプロジェクト

津南地域

Photo by Osamu Nakamura

フットウェアブランド・KEENと、アーティスト・Bubb（バブ）&Gravityfree（グラビティーフリー）が2012年から取り組んでいるプロジェクト。お祭りや農作業に参加しながら集落と交流を続け、さまざまな人々が集うプラットフォームを目指しています。2015年は外構の整備と、おにぎりプロジェクトを展開します。

Team Hong Kong（チーム ホンコン）プロジェクト（仮）

場所未定

2015イメージドローイング

持続可能農業と文化のプラットフォームづくり、香港の若者育成を目的に、ホーコク中等学校と連携し、５年間のトレーニングプログラムを組み、学生たちが長期滞在しながら地域の農業を体験する計画を進めます。

インフォメーション

▼作品鑑賞パスポート

	当　日	前　売
一　　般	3,500円	3,000円
高・専・大学生	3,000円	2,500円

・2015年３月７日前売発売開始
・飲食店や温泉・宿泊施設、イベント割引など各種優待あり
・取り扱い先：越後妻有オンラインショップ・各種プレイガイド・現地拠点施設など

▼問い合わせ先

大地の芸術祭実行委員会事務局
（観光交流課内）
☎757-2637、FAX757-2285
電子メール　t-kanko@city.tokamachi.lg.jp

拠点施設の企画展

越後妻有里山現代美術館［キナーレ］

十日町地域

ツァイ・グオチャン［蔡國強］

越後妻有の旅のゲートとして2012年にリニューアルした越後妻有里山現代美術館［キナーレ］。第６回展は、蔡國強の個展を開催します。

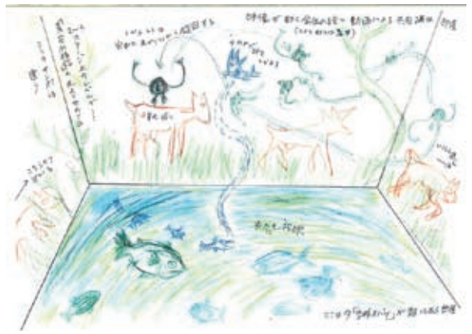
Installation view of *The Ninth Wave* in the Great Hall of the Power Station of Art, Shanghai, 2014. Photo by Zhang Feiyu, courtesy Cai Studio

鉢＆田島征三　絵本と木の実の美術館

十日町地域

田島征三

ヤギとオバケのトペラトトを主人公に、「学校はからっぽにならない」の続編を展開。館内に新しい作品を展開し、本物のヤギやビオトープも登場します。



2015イメージドローイング

まつだい「農舞台」

松代地域

限界芸術百選プロジェクト

2012年秋にスタートし、いけばなやパフォーマンスで集落を渡り歩き、シルバーアート展やペンキ絵展などを行ってきた「里山の限界」芸術シリーズ。生活の中にある芸術を探る企画展を行います。

連携プロジェクト

オーストラリア・ハウス

松之山地域

長野県北部地震で全壊し、2012年に再建されたオーストラリア・ハウスで、シドニーを拠点に活動している３人の作家が滞在製作を行い、住民と交流しながらアートプロジェクトを展開します。また、アジアリンクがスポンサーとなり、オーストラリアのパフォーミング・アーツグループを招へい・公演を行います。

Photo by Osamu Nakamura

ＪＲ飯山線アートプロジェクト

JR飯山線沿線

ジミー・リャオ【参考作品】※実際に展示される作品とは異なります

地域の充実と、駅を基点とした鉄道そのものが都市の交流の場となることを目指して、2012年にスタートしたプロジェクト。下条駅と越後田沢駅でアートプロジェクトを展開した2012年に続き、2015年には土市駅と越後水沢駅で展開予定。台湾の人気絵本作家ジミー・リャオが、作品と絵本で地域の物語をつくります。

全国学力・学習状況調査結果

家庭･地域･学校が連携した環境づくりが大切です

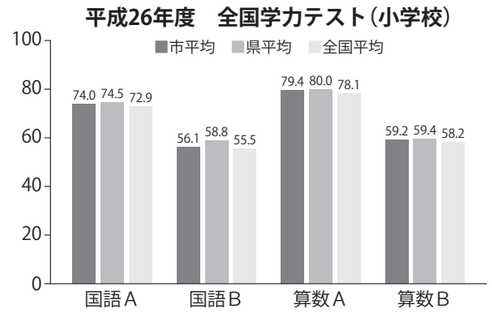
●問合せ：学校教育課757-3336

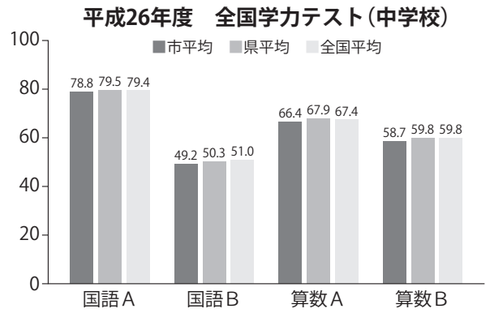
平成26年４月に実施した「全国学力・学習状況調査」結果の概要を公表します。市教育委員会や学校では、この結果を、子どもたちが「分かった」「できた」と実感できる授業づくりや、家庭・地域・学校が連携した教育環境づくりに生かしていきます。

調査対象　小学校19校の６年生、中学校10校の３年生

学力調査

学力には、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」「学んだことを活用する力」があります。本調査結果は、その学力の一部分になります。次のグラフは、平均正答率について、市・県・全国の比較を表しています。Ａは知識、Ｂは活用力を問う出題です。





1 結果

●小学校：全てにおいて、わずかに全国を上回り、県を下回っています。

●中学校：全てにおいて、わずかに全国と県を下回っています。

このことから、小学校･中学校ともに、ほぼ県･全国並みの学力を身に付けていると言えます。昨年度に比べると、小学校の国語Ｂと算数Ａ・Ｂ、中学校の数学Ａ・Ｂは大きく向上しました。

2 課題

小学校・中学校ともに、県・全国と同様に知識を活用する力が低い傾向があります。

3 課題解決の方向

活用力を高めるには、基礎基本の確実な定着を図りながら、自らの考えをもち、交流をとおして課題解決する学習活動を授業に位置付け、実践していくことが大切です。

●学校

・小中一貫教育で９年間のつながりのある授業の実践に努めていきます。

●市教育センター・学校教育課

・教職員を対象にした「若手教員サポート研修」や「学校訪問指導」、「指導力のある教員による模範授業公開」など、教職員の指導力向上研修をさらに充実していきます。

・毎日の授業の中で一人ひとりの児童生徒への学習支援に当たる市雇用の学習指導助手や支援員の配置を継続していきます。

学習状況調査

学力を高めるためには、食や生活習慣の改善による「心の安定」や豊かな教育環境などが必要です。本調査は、学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面などに関する調査です。

1 結果

県と全国と比べて次のような結果になりました。

●上回った項目：「地域行事に参加している」、「携帯やスマホを持っていない」など

●下回った項目：「自分には良いところがある」、「将来の夢や希望がある」、「家庭学習（通塾を含む）時間」など

2 課題

子どもたちの生活の中で、「認める・褒める」機会、大人が自らの生きがいを語る場面、学校外での学びの場が不足していることが考えられます。

3 課題解決の方向

学校・家庭・地域から自分が見守られている安心感を伝え、自己肯定感を育んでいくことが大切です。また、学校外の学びの環境整備が必要です。

●学校

・小中一貫教育で９年間を見通した教育活動を実践していきます。

・児童生徒のがんばりへの賞賛や激励を今まで以上に行っていきます。

●家庭・地域

・手伝いや行事への参加を促し、多様な学びを体験させましょう。

・共に活動するさまざまな場面で、褒めたり励したり、生き方に関する思いを語ったりしましょう。

●市教育センター

・「寺子屋塾」「宿題どんとこい事業」など、学校外の学習の機会を充実していきます。

Pick Up 第47回十日町市美術展

今年も多くの力作がそろいました

●●●●●問合せ：生涯学習課☎757-8918

芸術の秋、恒例の美術展が開催されました。公民館活動で腕を磨いている市民などから多くの作品が集まりました。その結果をお知らせします。

●**期間**＝10月18日(土)～21日(火)（4日間）
●**会場**＝市民体育館
●**応募者**＝230人
●**応募数**＝284点（8部門：日本画10・洋画47・版画11・現代美術36・彫刻8・工芸19・書道36・写真117）
●**入賞数**＝60点

日本画

市展賞
「夏の庭」
丸山　洋子（長岡市）
◆奨励賞
関川　捷次（小千谷市）
◆新潟日報美術振興賞
狩野　　敏（南魚沼市）
◆佳作賞
新保　正文（小千谷市）

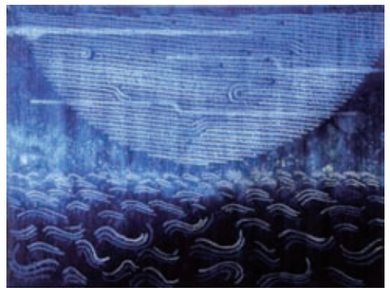
洋画

市展賞
「14才」
佐藤　愛子（浦田）
◆奨励賞
平野理恵子（南魚沼市）
根津　一良（尾崎）
◆新潟日報美術振興賞
髙野しげ子（南魚沼市）
◆佳作賞
水落　安子（漉野）
猪俣　栄二（松之山）
田村紀代子（下条本町）
村山富士子（水口）
水落　孝子（梅沢）

版画

市展賞
「岩石からの使」
大口　貞信（松代）
◆奨励賞
室橋　浩一（長岡市）
◆佳作賞
細貝　昭平（長岡市）

工芸



市展賞
「悠久Ⅱ」
徳永　隆男（本町７－２）
◆奨励賞
鈴木　隆夫（重地）
◆佳作賞
山内　正胤（学校町１）
根津　芳雄（上川町）

彫刻

市展賞
「待ちわびて」
小林　実　（城之古２）
◆奨励賞
柳　佳邑　（稲荷町３南）
◆新潟日報美術振興賞
須藤　雅昭（上新田４）
◆佳作賞
曽根　知子（新座３）

書道

市展賞
「區大相詩」
保坂　千紘（姿２）
◆奨励賞
髙橋　伸子（四日町新田１）
庭野美奈子（本町６－３）
◆新潟日報美術振興賞
小川　隆　（四日町新田２）
◆佳作賞
島田　美穂（新座３）
山口　典子（高山４）
山岸　繁雄（松之山）
上村　ナホ（新宮１）

現代美術

市展賞
「夜空ヲ背ニ泣ク」
久保田桜・波形かのん・滝澤楓・藤木美聡（津南中等教育学校）
◆奨励賞
村山三智男（高田町３西）
中　豊和　（稲葉）
◆新潟日報美術振興賞
保坂さつき（姿２）
◆佳作賞
惣山　紗妃（十日町総合高校）
水落　直也（十日町総合高校）
羽鳥花菜子（十日町総合高校）
高橋　侑希（十日町総合高校）

写真

市展賞
「雪の朝」
江部　堅市（南魚沼市）
◆奨励賞
茂野誠一郎（長岡市）
髙橋　俊明（新座第４－２）
髙橋　嵩一（松代）
村山　晴好（群馬県太田市）
和田　亨　（小千谷市）
富井しおり（十日町市）
◆新潟日報美術振興賞
萩原　茜　（十日町総合高校）
◆佳作賞
関谷　萌　（東京都板橋区）
西野　米子（島）
村山　博　（中町）
清水　正　（木島）
鈴木　洋一（松代）
山岸多喜男（蒲生）
根津　順治（中条上町）
酒井　一夫（寺尾）
斎木　文雄（南鐙坂）
根津健一郎（稲荷町３東）
和田　明子（倉俣）
鈴木　耕治（津南町）

昭和のとおかまち

No.67

■撮影時期：昭和37年11月27日
■撮影場所：松代

松代集落と千年（ちとせ）集落をつなぐ千年橋が総工費約3千万円と足掛け3年の月日を費やして完成し、この日落成式が行われました。この橋は松代地域最初の、そして当時としては旧東頸城郡最大の永久橋でした。式には塚田十一郎新潟県知事（当時）をはじめとする大勢の来賓が出席し、自衛隊の音楽隊も駆け付けるなど盛大に行われました。平成7年12月に新千年大橋が完成し、その役目を終えるまで地域の交通を支えてきました。

地域初の永久橋完成

■問合せ：松代支所地域振興課☎597-2220

大地の芸術祭の里 こへび隊・サポーター通信 ❽

明道亮平さん（燕市出身・23歳・長岡技術科学大学大学院工学研究科1年）

学校では教わらない学びが魅力

▼こへび隊になりたいと思った理由

アートに興味があり、ホームページで大地の芸術祭を知りました。もともとボランティア活動にも興味があり、海外の子ども向けのボランティアをしていたのですが、こへび隊の活動も楽しそうだなと思いました。２０１２年に、こへび隊員からの勧誘で活動を始めました。

▼こへび隊の活動を通しての感想

地元の人が温かく、協力的です。外部の人が来ても快く受け入れてくれる雰囲気を感じます。

▼こへび隊の活動の魅力とは？

地元の人でもこへび隊内でも、いろいろな人と関われることです。また、大学で学んでいる工学とは全く違うことを知ることができて興味深いです。

▼越後妻有の魅力とは？

大自然です。同じ県内在住ですが越後妻有は別格です。

▼これから「こへび隊」や「地元サポーター」になる人へ一言

こんなにさまざまな人と関われる機会はあまりないと思います。人脈が広がるのが魅力ですよ！

■問い合わせ先
「大地の芸術祭」の里
総合案内所
☎761―7767

若者×若者 キラメキワーカーズ

十日町市の仕事人

～語る　仕事・会社・十日町市への思い～

須藤　あゆみさん（中条島・34歳）

高校卒業後、ホテルやスーパーなどの勤務を経て今の会社に入社。今年、豆腐販売業務から農作物生産の担当へ異動。

■問合せ
産業政策課
☎757-3139

宮内　隆和さん（梅沢・32歳）

高校卒業後に農業大学校へ進学し、農業の基本を学ぶ。その後、父親の経営する花水農産に入社。

四季を感じながら仕事ができる、それが農業

宮内さん―農業の仕事は、夏の暑さや冬の寒さといった四季を感じ、自然と触れ合いながらできるのが醍醐味です。

須藤さん―今まで経験したことのない作業ばかりなので、日々新鮮で楽しく感じています。また仕事で得た知識を家庭で生かせるというのも良いですね。

子どもたちには農業をとおして自然と触れあいながら育ってもらいたい

須藤さん―農業を子育てにもつなげたいと思っています。子どもと土いじりをしながら、楽しく過ごすのが理想です。

宮内さん―子どもが野菜かごの台車を押すなどして手伝ってくれます。今の子どもたちは自然と触れ合う機会が少なくなっているので、農業をとおしてその機会を提供したいです。

地域と協力しながら魚沼産コシヒカリの価値を高めていきたい

須藤さん―まずは与えられた仕事をきっちりこなすこと。そしてもっといろいろな勉強をしながら農業に携わっていきたいです。

宮内さん―現在、米の食味を向上させるプロジェクトを進めています。地域の皆さんと協力しながら、共に魚沼産コシヒカリの価値を高めていきたいです。

にぎやかで協調性のある会社です

須藤さん―男性が多い職場ですが、にぎやかで楽しい雰囲気の会社です。農業には協調性が重要ですが、みんなで助け合いながら仕事に取り組むことができています。

協力企業

求人あり

■㈲花水農産
- 農産物生産販売など
- 十日町市梅沢
- 従業員数30人
- ☎752-3782

「土にこだわり、本物を作る」をモットーに、安全な食を守り続け、お客様に提供します。

まちの話題 タウントピックス TOWN TOPICS

秋を楽しむ花祭に笑顔も満開

10月11日(土)：天水島地内

黄色い花で一色に彩られた「天水島花祭」。集落で花植えに取り組んできた「ヤナギバヒマワリ」の花が会場一面に咲きそろいました。祭りには集落の人たち約40人が集まり、花を愛でながらおいしいお酒や郷土料理を食べ、カラオケをしたり昔の映像を見たりしながら、楽しい時間を過ごしました。

俳句遠足～ふるさとを歩こう～

10月９日(木)：千手・上野地区

保護者や地域の皆さんと連携した「俳句遠足」が川西中学校で初めて開催されました。中学生たちは学年混合の班で、俳句を詠んだり、問題に答えたりしながら歩きました。全長約17キロメートルのコース上にあるチェックポイントの１つである千手城跡では、地元の千手城址保存会の皆さんから、城跡にまつわる話を聞きながら地域の歴史への理解を深め、高台からの眺望に感動していました。

室野のおいしい水が新潟県の名水に

室野地内

実昇（じっしょう）清水が新潟県の名水に指定されました。この清水は城川ダム近くの城の池のそばにあり、豊富な水量で池の水車を回しています。夏場でも枯れることのない清水を目当てに、地元だけでなく、県内各地から訪れる利用者もいるおいしい清水です。

８０２０（ハチマルニイマル）運動で歯（は）っぴーすまいる！

市では、生涯を通じて自分の歯で、おいしく食べて楽しくいきいき過ごせることを目指して歯や口の健康づくりを推進しています。毎年、県の「よい歯のコンクール」への参加に取り組んでいて、本年度は１組の親子と80歳以上の２人が受賞しました。富井さんは親子でむし歯が１本もありません。池田さん・根津さんは80歳以上で20本以上自分の歯があり、健康的に過ごしています。皆さんも「8020」目指して、できることから始めましょう。

※8020運動とは、満80歳で20本以上の歯を残すことを目的にした、歯科に関する取組みです

■本年度の新潟県よい歯のコンクール受賞者

◎「親と子のよい歯のコンクール」
奨励賞
富井奈穂子さん
柚希さん
（市之越）

◎「いきいき人生
よい歯のコンクール」
奨励賞および
8020財団理事長賞

池田チイさん
（高山４）

根津孝二さん
（学校町１）

＝市民リポーターによる市民目線でのリポートです。市民リポーターはいつでも募集していますので、興味のある人は問い合わせてください。

生まれ変わった「ネージュ」をかわいがってね

「十日町雪まつり」のマスコットキャラクターである、雪の妖精ネージュが生まれ変わりました。ネージュは、第45回の雪まつりを記念し、「Zuccaブランド」で有名な小野塚秋良さん（松之山出身）のデザインで誕生しました。今回も小野塚さんのデザインで、まんまる・ふわふわで、よりかわいらしくなりました。これまで以上にかわがってください。

心一つに学び続けん ―中里中学校創立30周年―

10月25日(土)：中里中学校

中里中学校が創立30周年を迎え、記念式典が行われました。生徒会長の樋口亜美さん（３年）は「中里中生徒の良いところは、一人ひとりがいろいろな魅力を持っていることです。その魅力は、地域に支えられ、多くの人の応援があるからこそのものです」と全校生徒126人を代表して感謝の言葉を述べました。「心一つに学び続けん」― 記念式典中に響き渡った校歌は、30年間変わらない人々の思いを一つにしました。

叙勲おめでとうございます

瑞宝双光章（消防功労）

江村　久さん（北鐙坂３・66歳）

昭和44年から約40年間消防の職に従事し、その間の多岐にわたる功績が認められました。江村さんは「私個人ではなく組織全体の取組みを評価されたものと思います。後輩たちの励みにもなればうれしいです」と話しました。

瑞宝単光章（統計功労）

金澤　誠一さん（太田島１・78歳）

昭和50年の国勢調査から今まで102回の調査に従事した功績が認められました。金澤さんは「受章には驚きました。快く調査を受けてくれたり、届けてくれたりする人もいて、うれしいこともありました」と振り返りました。

表彰おめでとうございます

総務大臣表彰（住宅・土地統計調査功労）

越村　齊さん（新座４-２・75歳）

昭和50年の国勢調査から長きにわたって、統計調査に尽力した功績が認められました。越村さんは「地域のためにとさせてもらいましたが、地域を知ることができ、自分のためになり感謝しています」と話していました。

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。
情報がありましたら、企画政策課広報広聴係（☎757-3112）へ気軽にお寄せください。

10周年を機に、新たな地域づくりの力に

10月23日㈭：キナーレ

中越大震災から10周年を迎えたこの日、ECHIGO-TSUMARI（えちごつまり）フェスタが青年会議所主催で開催されました。「次の世代による笑顔に繋げる演奏」では、十日町高等学校吹奏楽部と十日町中学校吹奏楽部による合唱や演奏で、これまでの感謝と地域の元気を発信しました。また、十日町青年会議所・十日町社会福祉協議会・NPO法人セーフティネットぼうさいの３団体による「防災ネットワーク」の締結式も行われました。十日町青年会議所理事長の小山大志さん（北鐙坂３・37歳）は「３団体のそれぞれの良さを生かして連携し、市民の生命と財産を守りたい。これが始まりなので、地域に認知してもらいながら活動したいです」と今後の意気込みを語りました。

おおきくなったら何になる？

10月12日㈰：中里総合センター前

初開催の「商工祭AZASU（アザス）2014」（中里商工会主催）では、お仕事体験イベントが子どもたちに大人気でした。パティシエ・寿司屋・大工・ネイリスト・警察など、たくさんの職業体験に、子どもたちは真剣な顔をしながらも目を輝かせて体験していました。

見たくない「身近な事故」を見て感じてほしい

10月24日㈮：水沢中学校

事故の再現を実際に見ることで事故の怖さを認識させる「スケアード・ストレイト」という技法を用いた自転車交通安全教室が実施されました。プロのスタントマンが再現した目の前で起こる事故に、生徒からは悲鳴が上がっていました。参加した宮嶋太陽さん（１年）は「今日見たことを教訓に、これからも自転車の安全運転に取り組んでいきたいです」と話しました。

小中一貫教育レポート

小中合同保健指導「吉田パワーアップ作戦」で小学生と中学生が合同授業

９月19日㈮：吉田中学校

吉田・鐙島小学校の５・６年生と吉田中学校の１年生が、「こころの健康～ストレス対処法を学ぼう～」と題してリラックス動作法を学びました。臨床動作士の指導を受け、腰・肩・呼吸・立位の動作法を体験した後、小・中縦割り班で、自分が感じた心身の変化や、どんな場面に実際使えそうかなどを伝え合いました。「今回習った動作法を生かして、毎日元気に過ごしたいです」など自分からやってみようとする姿が多く見られました。

GUIDE ～ お知らせ・ガイド ～

催し・講座

里山アートスクール ―いっしょにまなぶ いっしょにたのしむ―

越後妻有里山現代美術館［キナーレ］の作品を学び、自分の作品を作る全5回の工作教室です。

日／**内** 11月15日㈯／光る泥だんごをつくろう、22日㈯／トリックアートを撮ろう、12月6日㈯／影絵であそんでみよう、20日㈯／スノードームをつくろう、最終回の日程・内容は調整中※いずれも午後2時～4時

会 越後妻有里山現代美術館［キナーレ］

¥ 5回7千円※1回のみは1500円

問 大地の芸術祭の里総合案内所（☎761―7767）

文化庁巡回展「日本発掘―発掘された日本列島2014―」

野首遺跡（上新田地内）出土の火焔型・王冠型土器4点が出品されます。

日 11月15日㈯～12日21日㈰午前9時～午後4時30分

休 月曜日※祝日のときは火曜日

会 長野市立博物館（長野市）

¥ 300円、高校生150円、小・中学生100円

問 博物館（☎757―5531）

青春フェスタ2014

高校生が主体で運営するまちなかイベントです。

日 11月16日㈰午前10時～午後3時

会・内

●**本町2丁目広場**＝屋台村・ビンゴ大会・福まき・十日町高校書道部パフォーマンス

●**ふらっとステーション（本町2）**＝ライブハウス（ダンス・カラオケ・バンドなど）・ソフトドリンクサービスコーナー

●**本町分庁舎**＝お化け屋敷

●**まちのす（本町3）**＝カードゲーム大会（遊戯王・バトスピなど）・テレビゲーム大会（ウィニングイレブン2014）

他 11月16日㈰～12月中旬まで中心市街地のアーケードの柱に、高校生による将来の夢や大人へ一言などを短冊にして張り出しています

問 NPO法人にぎわい（☎761―7230）

第20回里山学会 雪里における人と野生鳥獣との共存 ―適切な鳥獣被害対策と保護管理に向けて―

日 11月16日㈰午後1時30分～4時

会 松之山自然休養村センター

内 基調講演・パネルディスカッション

講 望月翔太さん（NPO新潟ワイルドライフリサーチ副会長・新潟大学自然科学系助教）

●**パネリスト**＝小林庄一さん（十日町地域振興局健康福祉部）、池田富夫さん（県猟友会会長、同会十日町支部長）

問 「森の学校」キョロロ（☎595―8311）

枯木又新そばの会

日 11月23日㈰午前10時～

会 交流施設のっとこい

¥ 1500円、小・中学生800円

他 そば打ちができる服装

問 春川（☎759―2216）

越後名物数々あれどツアー

十日町市のおいしいお酒と妻有ポーク「越乃紅」を堪能できるモニターツアーです。

日 11月29日㈯午後0時10分～2時40分※十日町駅集合・解散

¥ 2500円

定 20人※3人以下のときは中止

内 「メンチカツサンド」（プログタウン）、酒蔵見学と「吟醸生」（松乃井酒造場）、「越乃紅米シャブコース」（アソン・フォレ）

〆 11月20日㈭

申・問 観光交流課観光企画係

広告掲載

フラワーホームの**住宅メンテナンス教室**のご案内　参加費無料!!

・**日時**　11月24日（月）振替休日　**完全予約制**
午前の部　10:00～11:30（15名）
午後の部　13:00～15:00（15名）
・**会場**　ドミノモデルハウス（十日町市稲荷町３南）

この度フラワーホーム・アフターメンテナンス課では住宅を長くキレイに使って頂く為、またこれからの大掃除に役立つ方法を実際に体験できる「住宅メンテナンス教室」を企画しました。

会場の建物は築６年。色々な所にキズや汚れ等が出てきました。実際に私達がどんな方法で汚れを落とすのか、どうやってキズの補修を行うのか皆さんの目で確かめて下さい！！

お申し込みはこちらへ↓↓↓

お客様専用ダイヤル　0120-550-208　www.flower-h.com　株式会社フラワーホーム

※市では広告を募集しています。詳しくは広報広聴係まで

（☎757―3100）

特別講演会 地域博物館の可能性

これからの博物館のあり方を学びます。

日11月29日(土)午後1時30分～3時30分
会情報館
¥無料
定先着40人※要事前申し込み
講佐々木秀彦さん（東京都美術館学芸員）
申・問住所・氏名・電話番号を博物館（☎757―5531）

まちなか元気応援助成事業 わくわく歌声喫茶

生伴奏で歌って3世代交流を楽しみましょう。

日11月30日(日)午前11時～正午
会ふらっとステーション(本町2)
¥千円※子ども500円
他朗読（橘由貴さん）とチェロ（翠川敬基さん）の鑑賞会も同時開催
申・問十日町おやこ劇場・丸山（☎090―2548―0507）

橘由貴 朗読芸術への誘い ～樋口一葉 十三夜～

美しい朗読とチェロの響きから、新たに紡ぎ出される一葉の世界。日本文学を朗読で味わいましょう。

日11月30日(日)午後7時～
会情報館
対中学生以上
¥1500円、中・高校生千円
●出演＝朗読：橘由貴さん、チェロ：翠川敬基さん
問「橘由貴 朗読芸術への誘い」実行委員会・岡村（☎090―7288―8996）

職員知恵出し会議 政策提案プレゼンテーション（発表会）

市職員の斬新で柔軟な政策提案をぜひご覧ください。優れた提案は新事業として実施されます。

日12月3日(水)午後7時～9時
会千手中央コミュニティセンター
内3つの班が選択したいずれかの政策（過疎化・少子化・高齢化）を提案します
問企画政策課企画政策係（☎757―3193）

第3回 近代名作読書講座 今読みたい、また読みたい日本の名作

題名だけなら誰もが知っている名作を読み返し、それぞれの魅力を味わう講座です。

日12月4日(木)午後7時30分～8時40分
対中学生以上
定先着30人
内『蒲団』（田山花袋作）の鑑賞ポイントを学び、日本の私小説の誕生を現代の視点から考えます
講庭野三省さん（市教育委員長）
会・申・問電話またはFAXで情報館（☎750―5100、F750―5103）

募集

「ごみ減量標語」募集

ごみを減らしていくためのアイデアなどを標語にしてみませんか。入賞者には12月中旬に通知し、賞品（商品券）が贈呈されます。

対市内に在住もしくは通勤・通学している人※中学生以下を除く
他応募数は1人1点とし、応募者のオリジナル作品に限ります※入賞者は市の広報や市民環境会議会報に作品・氏名などを掲載。さらに最優秀作品は平成27年度ごみカレンダーに掲載
〆11月25日(火)
申・問はがき（電子メール・FAX・持参も可）に住所・氏名・電話番号を明記の上、〒948―0056十日町市丑915―2十日町市民環境会議事務局（環境衛生課内☎752―3924、F757―1751）

新しい「超快速列車」の愛称募集

ほくほく線では平成27年3月ダイヤ改正から、今までより速い快速列車を運行します。この「超快速列車」の愛称を募集します。詳細は北越急行ホームページ（http://www.hokuhoku.co.jp）をご覧ください。

●募集期間＝11月15日(土)～30日(日)
問北越急行㈱本社愛称募集係（☎025―770―2820）

生徒募集 陸上自衛隊高等工科学校

試験内容など詳細は、問い合わせてください。

●受付期間＝①推薦：11月1日(土)～12月5日(金)、②一般採用：11月1日(土)～平成27年1月9日(金)
●応募資格＝平成10年4月2日から平成12年4月1日までの間に生まれた人
問新潟地方協力本部長岡出張所（☎0258―33―0256）

福祉・健康

十日町病院休診

次のとおり休診します。ご理解ご協力をお願いします。

【眼科】
日11月13日(木)・14日(金)
【耳鼻咽喉科】

日11月20日(木)・21日(金)
問十日町病院経営課（☎757―5566）

社会福祉法人妻有福祉会 公開講座

日11月29日(土)午後1時30分～
会水沢公民館
¥無料
内「地域医療と地域福祉―新・十日町病院の地域連携について―」（仮題）
講塚田芳久さん（県立十日町病院院長）
申・問妻有福祉会(☎758―2050)

家族介護教室・介護者交流

認知とは、丸ごと「認」め、本人の気持ちを「知」ることです。認知症のことをもっと知りましょう。

日11月29日(土)午後1時～3時
会特別養護老人ホーム三好園
対認知症の人の家族・介護に携わる人
定30人
内講演「認知症になっても笑顔で暮らしたい」・懇親会（茶話会）
講金子裕美子さん（認知症の人と家族の会新潟県支部代表）
申・問デイサービスセンター三好園・金澤（☎761―7364）

スギヒラタケの摂取を控えましょう

スギヒラタケ（十日町地域では、「カタハ」とも言われています）は、急性脳症の発症との因果関係が否定できていません。腎機能の低下している人だけでなく、一般の人も摂取を控えてください。

問県福祉保健部生活衛生課（☎025―280―5205）

子育て

「十日町市子ども・子育て支援事業計画」と関連条例（要旨）への意見募集

「子ども・子育て支援事業計画」の試案と関連条例（要旨）への意見を募集します。試案などを閲覧の上、規定の様式でお寄せください。

●募集期間＝11月7日(金)～20日(木)
●閲覧場所＝本庁・各支所・分庁舎・情報館・各地区公民館・市ホームページ
問子育て支援課保育園係（☎757―9169）

子ども博物館Ⅲ 縄文体験 ミニチュア土器・勾玉づくり

日12月13日(土)午後1時30分～4時
対小学4～6年生※保護者参加可
¥千円※材料費
定先着10人※保護者除く
内オーブンで焼ける粘土を使ったミニチュア土器づくり、コハク（縄文時代から使われている、木の樹脂が固まってできた宝石）の勾玉づくり
他汚れても良い服装で参加してください
〆11月29日(土)
会・申・問申込書（学校で配布）に参加費を添えて博物館（☎757―5531）

スポーツ

第2回 働き盛りの健康講座

講演とボールを使ったエクササイズを行います。

日12月7日(日)午前10時～午後1時
会十日町中学校
¥3千円（ボール2個付き）※ボール持参のときは1500円
講中尾和子さん（厚生労働大臣任命健康大使）
申・問NPO法人ネージュスポーツクラブ（☎752―4377）

全国大会出場選手壮行会開催

10月3日(金)、全国大会に出場する選手の壮行会が行われました。大会・選手は次のとおりです。（敬称略）

第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会
日10月31日(金)～11月2日(日)
会神奈川県日産スタジアム
●**選手**＝田邊千夏、越村心音（以上十日町中）、阿部敏明（中条中）、柳万葉（水沢中）、仲嶋嵩人、髙橋ひなた（以上川西中）

第69回国民体育大会
日10月13日(月)～22日(水)
会長崎県立総合運動公園陸上競技場ほか
●**選手**＝**陸上競技**／阿部敏明（中条中）、庭野勇吾（十日町総合高）、相馬由佳（愛知教育大・十日町高出身）、**バスケットボール**／高橋浩平、杉谷礼智（以上十日町高）、**野球（硬式）**／池田貴将（日本文理高・南中出身）、**ボウリング**／渡邉望（十日町総合高）、**相撲**／金井旺雅（海洋高・中条小出身）

地籍調査（住所表示変更）を進めています

平成22年度から市街地を16計画区に分割し、順次地籍調査を進め、併せて分かりやすい住所表示に変更しています。

問都市計画課地籍調査係（☎757-3342）

市街地第４・５計画区の住所表示が変更になります

●**市街第４計画区**
（該当行政区：高田町１・２、昭和町２・３、泉町、西寺町、七軒町、加賀糸屋町、駅通り）

●**市街第５計画区**
（該当行政区：本町４・５、昭和町４、旭町、西浦町東・西、稲荷町１・２、稲荷町３東、稲荷町３南（一部）、丸山町（一部）、田中町東・西、田中町本通り）

地籍調査が完了し、11月17日(月)をもって住所表示が変更になります。

住所変更手続きに必要な各種証明書や手続きのしおりなどは、11月19日(水)以降に該当する人へ発送します。

※新旧地番対照表や手続きのしおりは市ホームページでも閲覧できます

■変更例

変更前表示：十日町市○○番地
十日町市寅甲○○番地

変更後表示：**十日町市高田町二丁目○○番地**
十日町市本町五丁目○○番地

市街第６・７計画区の進捗状況

●**市街第６計画区**
（該当行政区：学校町１・２、川原町）

●**市街第７計画区**
（該当行政区：上川町、田川町１～３）

平成27年秋ごろに住所表示が変更になる予定です。

市街第８・９計画区の進捗状況

●**市街第８計画区**
（該当行政区：本町６-１～３、稲荷町３北、西本町２・３、八幡田町、下川原町）

●**市街第９計画区**
（該当行政区：稲荷町３本通り・４・西、西本町１）

平成27年度から現地調査に入ります。

※地籍調査の進捗をはかるため、２つの計画区を実施する予定です

※調査に入る前に関係者へ案内文書を送付し、説明会を開催しますので、参加をお願いします

※円滑な調査のために現地調査前に隣接の土地所有者と筆界（境界）について確認をお願いします

十日町病院周辺道路が一部通行止めとなります

駐車場から病院までは歩行者用の仮設通路を設置しますが、一時的に待機あるいは通行できないときがあります。なお、斜線部分の駐車場は、整備完了次第に利用できます。

日11月下旬～12月上旬

●**場所**＝市道桜木町高田町３丁目南線の一部（十日町病院東側出入口付近）

問地域中核病院建設推進室（☎757-3187）

くらし・相談

十日町市特別職報酬等審議会

日11月18日(火)午後1時30分～
会市役所本庁
内市長・副市長・教育長の給与について
問総務課人事係（☎757―9787）

緑のカーテンコンテスト結果発表

10月26日(日)開催の環境フェアで、十日町市緑のカーテンコンテストの表彰式が行われました。入賞作品は市ホームページで紹介しています。（敬称略）

【個人の部】

◎最優秀賞
樋口雅春（宮下町西）

「あさがお」

◎優秀賞
栗林洋一（中条新田）、南雲信二（関根１）

◎優良賞
遠田孝雄（川治上町１）、井口捨三郎（内後２）

【団体の部】

◎最優秀賞
千手小学校　わかぶな緑の少年団・５年（学校町）

「ゴーヤ」

◎優秀賞
羽根川荘（田麦）、十日町農協松之山支店（松之山）

◎優良賞
㈱丸山工務所（稲葉）、なぐも原・結いの里（南雲）

問環境衛生課（☎752―3924）

特別徴収説明会

平成27年度から個人住民税（市・県民税）の特別徴収（給与からの天引き）を開始する事業主向けの説明会です。※税務署の年末調整説明会（午後２時～）と併せて開催

日11月21日(金)午後４時～４時30分
会市民会館
対特別徴収未実施事業主
内個人住民税特別徴収の制度・事務概要説明
問税務課市民税係（☎757―3716）

法人市民税法人税割の税率が変わります

10月1日以後に開始する事業年度から、法人市民税法人税割の税率を14・7％から12・1％に引き下げます。これは法人住民税法人税割の一部を国税化し、地方交付税の原資に充てるためです。※地域間の税源の偏りや財政力格差の縮小を図るための地方税制改正によるものです

問税務課市民税係（☎757―3716）

全国一斉「女性の人権ホットライン強化週間」

11月17日(月)から23日(日)までを「女性の人権ホットライン強化週間」として、法務局職員または人権擁護委員が女性の人権に関する電話相談を受け付けます。

日11月17日(月)～21日(金)午前8時30分～午後7時、22日(土)・23日(日)午前10時～午後5時

●**相談ダイヤル**＝☎057―070―810（全国共通）

問新潟地方法務局十日町支局（☎752―2575）

青色申告決算書の説明会

対象	開催日	時間	会場
営業所得関係	12月1日(月)	午後1時～3時	松代総合センター
	12月4日(木)	午前10時～11時30分	市民会館
		午後1時～3時	
農業所得関係	12月3日(水)	午前10時～11時30分	十日町農協本店

問十日町税務署個人課税部門（☎756―6001）

ご存じですか？「建設リサイクル」

建設産業では、建設リサイクル法に基づき、再生資材として利用できる特定の建設廃棄物（コンクリート・木材・アスファルトなど）の分別解体とリサイクルを積極的に推進しています。家屋の解体などの際には、業者に適正な分別解体・再資源化を促すなど、建設リサイクルの推進にご理解とご協力をお願いします。

問北陸地方建設副産物対策連絡協議会事務局（☎025―280―8880）

【市報変更訂正のお知らせ】

市報10月25日号10ページお知らせ・ガイドの**「中越大震災シンポジウム・エコノミー症候群検診」**で会場が「クロステン」とありましたが、**16日のシンポジウムのみ「サンクロス十日町」**に変更訂正することをお知らせします。

【市報お詫びと訂正】

市報10月25日号18ページ「11月の休日救急医」で、23日（日・祝）の医療機関に「中条病院（北原・☎757―3018）」が記載されていませんでした。国保川西診療所と中条病院の２医院での体制となります。お詫びして訂正します。

このとき熱中&夢中

市民活動ネットワークひとサポが、旬な人・団体を紹介します。 80

十日町ゴスペル「雪の華」
心を溶かす交歓の響き

「雪の華」は、ゴスペルやポピュラー音楽から日本の叙情歌まで、幅広い歌の世界を全身で奏でるグループです。歓びや心情を歌い上げるその声は、聴く人の心を深くに語りかけます。現在は、12月13日(土)に開催される十日町教会でのクリスマスコンサートに向け練習中。「歌う人も聴く人も楽しく幸せになれる空間をもっと広げたい」と、活躍の場を広げています。

◆問合せ：代表・波間みえさん（☎752―7592）

高校１年生から50代まで、幅広い年代のメンバーで活動しています。「自分がいなくては」と個々の責任感も高まり、歌声はますます力強く、メンバーの信頼感はゆるぎないものになりました。

新たな仲間を随時募集中です。

９月21日(日)キナーレで行われたオータムコンサートに出演。このほか清津ピクニックコンサート・駅西まつり・敬老会など多くのイベントで歌声を披露しました。

毎週水曜日午後８時から、市民会館のステージで練習しています。「疲れていても元気になる」「歌うことで次の日笑顔で仕事に行けるし人に優しくなれる」と、歌声を重ねるひとときは、前向きな日々の源です。

「私たちにゴスペルを教えてください」。平成18年、ピアニスト田口好世(たかよ)さん（本町西１・64歳）の自宅に３人の高校生が訪れました。中学生のときに見た映画「天使にラブソングを」の歌の世界に魅了され、歌のグループを作って活動してきた高橋萌さん（新座・24歳）たちは、高校卒業後も続けたいと指導を願い出ました。熱意に押され快諾した田口さんの元に15人ほどの高校生が集まり、「雪の華」が誕生しました。「最初は直立不動で歌うのが精一杯でした」と、高橋さんは当時を振り返ります。

活動の転機は、合唱フェスティバル出演後に訪れました。一人の女性が彼女たちの歌声に心を動かされ、練習場の扉を叩いたのです。大人が参加することで世代を超えて社会とつながる場となり、活動は発展していきました。

「技術を磨き、雪まつりのメーンステージで歌うことが目標。将来はゴスペルのプロと競演することが夢です」と田口さん。12月にはクリスマスコンサートを開催します。心はもちろん雪をも溶かす熱いステージが期待されます。

活動を紹介したい団体を募集しています
ひとサポ ☎761―7444

和顔愛語（わがんあいご）
～はつらつ おばあちゃん～ 28

元気なお年寄りを紹介し、健康の秘けつなどをうかがいます。

廣田 キクノさん（小原・101歳）

11月に102歳を迎えるにもかかわらず「体はたっしゃです」と話すとおり、痛いところも常用している薬もないというキクノさん。外に出るのが好きで、天気が良ければ家の周りの草取りなどをしています。その途中でご近所さんを見かけたら声をかけ、お茶飲みをしながら畑の様子や野菜の出来具合などについておしゃべりを楽しんでいます。

わが家のイクメン★カジダン 31

「イクメン」とは育児を楽しんでいるメンズ（男性）、「カジダン」とは家事に積極的な男性のことです。そんな我が家自慢のイクメン・カジダンを紹介します。

わが家の パパ：**阿部 昭仁**さん（北新田２・34歳）

我が家のイクメン☆カジダン募集中！育児や家事に取り組んでいる写真と紹介文をお寄せください。
申込み・問合せは企画政策課広報広聴係☎757-3112

時間のあるときは、バーベキューをするなどして、子どもの楽しみをつくるようにしています。

家事も育児も協力してくれます。仕事が遅くなることもあるので助かっています。

優しく自転車を教えてくれるお父さんが好き！

ジュニア芸術祭

鐙島小学校 113

おにがしまに行ったよ

佐藤　五輪（ごりん）さん（2年）

このたまごは、どこにでも行けるたまごです。ぼくはあいぼうとおにがしまに行きました。がんばったところは、ぼくやあいぼうのうでや足をつくるところです。

あさがおがさいてうれしかった

丸山　萠衣（めい）さん（1年）

あさがおをそだてました。あか、あお、ピンクのきれいな花がさきました。花がいっぱいになって「やったー」とおもったときのようすをかきました。

ふわふわわくせい

尾身　叶翔（かなと）さん（3年）

コンパスでかいた絵に、やさしい色をぬったらタイトルが思いうかびました。このわくせいは全部ふわふわで、はしもふわふわだから食べ物を食べるのもむずかしいです。

みんなビックリ！

髙橋　瑠奈（るな）さん（4年）

人間が動物たちにマジックを見せている絵です。動物たちがびっくりしている様子と、拍手している様子も描いて楽しい場面となるように工夫しました。

きれいなさくら

吉澤　柊（しゅう）さん（5年）

学校の桜がきれいだったので絵にしました。光と影の部分を色の濃さで表現しました。花の色をつくるところを苦労しましたが、がんばってよかったです。

え～！なんで～！

齋木　駿（しゅん）さん（6年）

「不思議な乗り物に乗って行ってみたい世界」のテーマで、自分が小さくなった世界をかきました。人の大きさの変化と、自分に光を当てたところを工夫しました。

■発行/十日町市役所　〒948-8501 新潟県十日町市千歳町3丁目3番地　TEL.025-757-3112　FAX.025-752-4635
E-mail koho@city.tokamachi.lg.jp　URL http://www.city.tokamachi.lg.jp/■編集/企画政策課広報広聴係